

2050年CO2排出 50%を実現するための具体策満載

発想はCSR、出口はビジネス

ランドスケープ設計事務所の環境ビジネスセミナー キーワードは「緑」

来る7月6日、環境ビジネスセミナーを開催いたします。「不都合な真実」の上映、IPCC第四次報告などを受け、メディアの取り上げ方も俄に増えてきている昨今ですが、メディアからの情報を待つまでもなく、突然のスコールを目の当たりにする今、気候変動の問題は誰の目にも明らかではないかと思えます。

安倍総理は、2050年までに世界のCO2排出量を50%削減することを目的に掲げました。当セミナーでは、その目標をどう達成するかについての具体策について、数多くのヒントをご紹介します。省エネや紙・ゴミ・電気の削減、エコプロダクツ推進に留まらない、一歩進んだ環境ビジネスモデルと、それを資金的にバックアップする金融システム。ここで重要なのは、私たちが描いているモデルは、社会・環境貢献に大きく寄与しますが、寄付やボランティアに頼るものではないということです。発想はCSRですが、出口はビジネスです。

具体的に、こういった方々にセミナーに参加する意味があるのか、いくつかの例を挙げてみます。

- ・ 長期資金運用者（年金基金の運用者・生命保険会社の運用者など）
 - 気候変動は、想定外の時間当たり雨量や気温の変化をもたらす可能性があります。出来る限り事前にリスクの所在を特定しておくことが、リスクマネジメントの上で重要であり、長期的な運用成績の巧拙にも影響すると考えられます。気候変動の時代のリスクリターンの所在の変化について、広くインスピレーションを得ていただける場となります。
 - オルタナティブ・アセットクラスによる運用リターンの源泉の多様化を図るための、アイデアをご提供します。またこれは、従来の金融商品にはなかった、デュレーションの長いアセットですので、これを組み入れることでALMのマネジメントに利用していただければと思います。
 - 地球環境保全に大きく貢献する、具体論をご提案します。
- ・ 不動産ファンド、リート・マネージャー
 - 原油価格の高騰などエネルギーの効率的利用、再生可能エネルギーへのシフトを進めておくことによって、長期的な物件の評価価値は大きく変化します。日本ではまだ馴染みの少ないエコロジーリートの概念を、米国グリーンビルディング協

会のシニア講師がご紹介します。

- ・ 金融機関 / 商社
 - CO2 排出権トレード、緑の CDM などポスト京都議定書を見据えた、新しいビジネスチャンスを展望する際のヒントを多く得られます。
- ・ 投資顧問会社 (株式運用者)
 - 気候変動に伴って起こるパラダイムシフトは、業種間の成長性にも大きく影響するものと考えられます。今後の成長性が有望な再生可能エネルギーセクターについて、専門アナリストによる欧州最先端のコメントを聞いていただけます。
- ・ 建設・不動産会社 (商品開発ご担当者)
 - 建物・敷地の環境性能を高めておくことによって、投資家や金融機関からの資金の融通がつきやすくなり、最終的には ROI が高くなるという財務上のメリットや、またテナントが入りやすくなるなどのマーケティング上のメリットが相乗効果的に良い方向に機能しているウォールストリートとグリーンビルディング (LEED) との関係について、最新の情報をアップデートしていただけます。

ランドスケープ設計 (緑地計画) に携わる私たちが企画・提案する、各種アイデアのキーワードは「ミドリ」です。植林ファンド、緑の CDM、国内林再生、グリーンビルディング (サステナブル建築)、グリーン・リート (エコロジー・リート) など、象徴的な意味合いで使われることも多いミドリですが、地球環境の保全や私たちの日常空間の快適性をより良いものにしていく際、大きな力となってくれるのも緑です。緑の空間を守ることは、それを支える土壌と水をたいせつにすることが不可欠になります。そのようなランドスケープの発想を媒介に、これまで互いに遠い存在であった「金融」と「環境保全」という別々のテーマの架け橋になることができると願っております。

2007 年 6 月吉日

CSR デザイン & ランドスケープ設計事務所
代表取締役 平松 宏城